

平成 23 ( 2011 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/4 )

| 学部・学科        | 人間学部・文化人類学科   | 職名 | 教授 | 氏名 | ハシモト カズヤ<br>橋本 和也 |
|--------------|---|----|----|----|-------------------|
| 学歴           | 昭和53年 3月 國學院大学文学部文学科卒業<br>昭和53年 4月 埼玉大学教養学部文化人類学講座聴講生<br>昭和56年 3月 大阪大学大学院博士課程前期 人間科学研究科人間学専攻修了<br>昭和62年 3月 大阪大学大学院博士課程後期単位取得後満期退学   |    |    |    |                   |
| 学位           | 昭和56年 3月 人間学修士 (大阪大学)<br>平成 7年 3月 人間科学博士(大阪大学 第11935号)  |    |    |    |                   |
| 専門分野         | 文化人類学 ( フィジー諸島 観光、キリスト教、スポーツ、政治変動に関する研究 )   |    |    |    |                   |
| 専門資格         |   |    |    |    |                   |
| 所属学会         | 昭和54年 4月 日本文化人類学会「現在に至る」<br>昭和62年 4月 日本オセアニア学会「現在に至る」<br>平成13年 日本スポーツ人類学会「現在に至る」<br>平成15年度 日本文化人類学会第37回研究大会事務局長<br>平成16年-平成20年、平成22年-平成26年 日本文化人類学会評議員<br>平成18年-平成22年 日本オセアニア学会評議員<br>平成24年- 現在 観光学術学会 副会長        |    |    |    |                   |
| 受賞           |   |    |    |    |                   |
| 担当授業科目       | 学 部<br>文化人類学演習 ・ 、卒業研究演習 ・ 、卒業論文、実践人類学実習A、実践人類学実習B、社会人準備実践演習、オセアニア研究、観光文化論、文化人類学特別講義<br>大学院<br>現代文化人類学、フィールドワーク、現代文化研究 ( 観光・地域開発論 )、現代文化研究演習 ( 観光・地域開発論 )   |    |    |    |                   |
| 論文指導         | 論文指導担当[主査] ( 卒論 : 4名、修士論文 : 0名 )<br>論文審査担当[副査] ( 修士論文 : 0名 )  |    |    |    |                   |
| 教育実績 (FD 活動) | 授業科目「観光文化論」の教科書として、2011年2月に『観光経験の人類学』(世界思想社)を出版し、観光みやげや観光ガイド、そして地域文化観光についての事例紹介を行い、講義に活用している。<br>また、実践人類学実習 A・B と、文化人類学演習 ・ の授業では、宇治市と地域の宇治橋通り商店街において「現場教育」を行い、その活動を『2011年度3回生ゼミ活動報告 「宇治検定」作成と『ええもん市』』(62頁)にまとめた。 |    |    |    |                   |
| その他の教育実践活動実績 | 地域との連携活動として、「宇治橋通り商店街 個性店プロジェクト」を展開し、毎月1回第4日曜日に、学生が推薦する商店街各店の品物を「ええもん市」として委託販売をし、地域商店街の活性化の手伝いをしている。成果として、学生の自覚と責任感が強まり、商店街振興会理事の方々との信頼関係が構築されていっている。   |    |    |    |                   |
| H23 年度研究課題   | 学部・大学院共通<br>1. 2006年クーデター以後のフィジーの政治状況について<br>2. 観光の人類学的研究   |    |    |    |                   |

平成 23 (2011) 年度 教員活動報告書 (2/4)

|   |   |
|---|---|
| <p>平成二十三(2011)年度の<br/>研究活動の概要</p>                       | <p>(1) 2011年9月11日から10月10日まで、フィジー共和国にて調査を行い、「ポスト・『ポスト・コロナル』状況における軍事政権 フィジー、2006年ミリタリー・クーデターのその後」という論文を書き上げた。『人間学部研究報告第十四集』(pp.47-62)に掲載予定である。</p> <p>(2) 2011年2月に『観光経験の人類学 みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって』(世界思想社)を刊行した。</p> <p>(3) また、大阪の観光学部・学科・コースをもつ大学を中心に「観光学術学会」を立ち上げる準備会の委員となって活動し、2012年2月26日に発起人182名の賛同を得て、学会を創設した。</p>   |
| <p>平成二十三(2011)年度の<br/>主な研究成果等</p>                       | <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『観光経験の人類学 みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって』単著 266頁 (世界思想社)</li> <li>『フィールドワーカーズ・ハンドブック』日本文化人類学会監修 鏡味治也・関根康正・橋本和也・森山工 共編 世界思想社</li> <li>「一日フィールドワーク」(単著)『フィールドワーカーズ・ハンドブック』日本文化人類学会監修 鏡味治也・関根康正・橋本和也・森山工 共編 pp.37-60</li> </ol> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>6月11日 法政大学で開催された日本文化人類学会において評議員として会議に参加し、その後座長を務めた。</p> <p>7月24日 日本文化人類学会博士論文発表会にて座長として2つの発表の司会を行った。</p> <p>10月29日 大阪経済大学で開催された第13回「生涯スポーツ学会研究大会」の「基調講演」として「観光人類学から見たスポーツ文化」の発表を行った。</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>5月20日 京都文教大学公開講座において「観光みやげの人類学」の講演を行った。</p> <p>(調査活動)</p> <p>9月11日から10月10日まで、フィジー諸島共和国にて、「2006年クーデター以後の政治状況について」の調査を行った。</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>就業力育成支援委員会委員、人間学研究所委員、</p> |
| <p>平成二十三(2011)年度の<br/>社会における活動</p>                      | <p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇治市文化財保護委員「平16より」</li> </ul>   |
| <p>平成十八(2006)～<br/>平成二十二年(2010)<br/>年度の<br/>主な研究成果等</p> | <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『ラグビー&amp;サッカーinフィジー スポーツをフィールドワーク』、単著、平成18年9月、風響社、京都文教大学文化人類学ブックレット 1(50p)</li> </ol> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「「宣教の歴史」から「土着協会成立の歴史」へ A.ティベットの戦略」、単著、平成18年10月、杉本良男編、国立民族学博物館調査報告62「キリスト教と「文明化」の人類学的研究」(pp.95-112)</li> <li>「観光と地域文化：観光人類学の課題」、単著、平成19年3月、神戸大学国際文化学部異文化研究交流センター 国際シンポジウム報告書『オセアニア、カリブにおける観光開発と文化』(pp.15-28)</li> </ol>   |

平成 23 (2011) 年度 教員活動報告書 (3/4)

平成十八(2006)～二十(2010)年度の主な研究成果等

(論文)つづき

3. 「課題発見・実現型、社会関係構築型の取り組みについて」、単著、平成19年6月、平成15-18年度科学研究費補助金(2.に同じ)研究成果最終報告書(pp.7-16)
4. 「「地域文化観光」と「地域性」「真正性」の議論を超えて」、単著、平成20年3月、京都文教大学 人間学部研究報告第10集(pp.19-34)
5. 「援助の記憶への視点 開発援助評価における文化人類学の役割」、単著、平成20年3月、平成17-19年度科学研究費補助金(基盤研究B・海外学術)「開発援助プロジェクトの評価方法に関する文化人類学的研究」(課題番号17401034, 研究代表者:千葉大学・文学部・助教授 鈴木紀)研究成果報告書(pp.250-266)
6. 「フィジーの新たな展開 四度目のクーデターのあとで」、単著、平成20年5月、平成16-19年度科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「オセアニア島嶼国におけるグローカリゼーションと国民文化に関する人類学的研究」(課題番号16251008, 研究代表者:神戸大学・国際文化学研究所・教授 須藤健一)研究成果報告書(pp.98-116)
7. 「観光経験と真摯さ 実存的アプローチに向けて」、単著、平成21年3月、京都文教大学 人間学部研究報告第11集(pp.1-15)
8. 「フィジーの国民スポーツ「ラグビー」」、単著、平成21年10月、国立民族学博物館監修、季刊民族学130号(pp.40-45)

(学会報告、学会活動)

1. 「地域との文化人類学的協働を探る 課題発見型・社会関係構築型の取り組みについて」、単独、平成18年6月、日本文化人類学会第40回研究大会分科会「実践人類学の必然性と可能性」(代表:千葉大学・鈴木紀) 東京大学
2. 日本宗教学会第65回学術大会パネル発表「宗教とツーリズム 聖なるものの「現在」をめぐって」(代表:筑波大学・山中弘) (コメンテータ) 単独、平成18年9月、東北大学
3. 「「地域文化観光論」「真正性」の議論を超えて」、単独、平成19年6月、日本文化人類学会第41回研究大会分科会「第四世界考 フィールドはいかに記述できるのか」(代表:日本女子大学・内藤順子) 名古屋大学
4. 日本文化人類学会の『フィールドワーカー・ハンドブック』編集委員(平成20・21年度)
5. オセアニア学会 評議委員(平成21年度)
6. 「みやげものと観光経験 「ものがたり」の役割」、単独、平成22年6月、日本文化人類学会第44回研究大会、立教大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演:

1. 「観光と地域文化:観光人類学の課題」、単独、平成19年2月、神戸大学国際文化学部異文化研究交流センター主催国際シンポジウム「オセアニア、カリブにおける観光開発と文化」、神戸大学国際文化学部
2. 「キリスト教とナショナリズム フィジー・イメージの出現」、単独、平成23年2月、国立民族学博物館共同研究「キリスト教文明とナショナリズム 人類学的研究」研究会

(調査活動)

- 平成18年 8月 JICA事務所および開発プロジェクトの現場での調査(於:フィジー)
- 平成19年 8月 南太平洋フィジー諸島共和国(科学研究費補助金課題番号17401034:後述)
- 平成20年 「地域文化観光」調査のため、炭坑まちおこしを推進している大牟田市と、四国巡礼の起点となる徳島市の調査を行った。
- 平成21年 8月 「観光経験の人類学 みやげもの・ガイドのものがたりをめぐって」の調査(於:横浜・鎌倉・江ノ島)

平成 23 (2011) 年度 教員活動報告書 (4/4)

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 平成十八～二十一(2006～2010)年度の主な研究成果等  | <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成15年度-平成18年度<br/>科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「(人と人を結ぶ)「地域まるごとミュージアム」構築のための研究」(課題番号15320123)研究代表者</p> <p>平成16年度-平成19年度<br/>科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「オセアニア島嶼国におけるグローカリゼーションと国民文化に関する人類学的研究」(課題番号16251008, 研究代表者:神戸大学・国際文化学研究所・教授 須藤健一) 研究分担者</p> <p>平成17年度-平成19年度<br/>科学研究費補助金(基盤研究B・海外学術)「開発援助プロジェクトの評価方法に関する文化人類学的研究」(課題番号17401034, 研究代表者:千葉大学・文学部・助教授 鈴木紀) 研究分担者</p> <p>平成20年 8月 「まちづくりに挑戦 ~「問題発見+提案型フィールドワーク」を学ぼう~」(日本学術振興会「ひらめき・ときめき・サイエンス」)の開催。高校生に商店街振興のための実践を体験してもらい、研究成果の還元をはかった。</p> |
|                                | <p>(学内活動)</p> <p>平成12年 4月 入試委員会委員「平21.3まで」<br/>大学運営委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成16年 4月 人間学部文化人類学科長「平20.3まで」</p> <p>平成18年 4月 学部人事委員会委員「平21.3まで」<br/>大学教学委員会委員「平22.3まで」<br/>大学予算委員会委員「平22.3まで」<br/>広報委員会委員「平21.3まで」<br/>自己点検・評価委員会委員「平22.3まで」<br/>危機管理委員会委員「平22.3まで」<br/>FD委員会委員「平21.3まで」</p> <p>平成21年 4月 将来構想会議委員「平22.3まで」<br/>就職委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成22年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平23.3まで」<br/>教務委員会委員「平23.3まで」<br/>人間学研究所所員「平23.3まで」</p>  |
| 平成十八～二十一(2006～2010)年度の社会における活動 | <p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成16年 宇治市文化財保護委員「現在に至る」</p> <p>平成16年 宇治市産官学連携システム研究会産業振興部会部会長「平22.3まで」</p> <p>平成18年 宇治市文化財保護委員として市の文化財への登録のための審査会に出席</p> <p>(その他)</p> <p>平成18年 歴史資料館との共同で「まるごと、いろいろ、たからもの 『地域まるごとミュージアム』のひとつの試み」の展示会を開催</p> <p>平成18年 宇治橋通り商店街において毎月「ええもん市」を3年生ゼミが企画開催</p> <p>平成18年10月 「彩りフェスタ」に3年生ゼミとして参加</p> <p>平成19年 地元の宇治橋通り商店街において地域との連携事業として毎月一度の「ええもん市」を開催</p> <p>平成20年 宇治橋通り商店街で毎月「ええもん市」を開催</p> <p>～</p> <p>平成22年</p>   |